

職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 | 設置認可年月日 | 校長名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|---------------------------|---|--|------|-----|--------|---|------|------|---------------------|---|-----|-----|------------|---|-----|-----|--------------------------|---|-----|-----|-----------|---|-----|-----|
| 北海道芸術デザイン専門学校 | 昭和51年4月1日 | 根上 和也 | 〒001-0024 札幌市北区北24条西8丁目1-12 (電話) 011-756-0777 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設置者名 | 設立認可年月日 | 代表者名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校法人美術学園 | 昭和62年12月4日 | 増田 涼平 | 〒001-0024 札幌市北区北24条西8丁目1-12 (電話) 011-756-0777 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 文化・教養 | 文化教養専門課程 | 環境デザイン学科 (インテリアデザイン専攻) | 平成7年1月23日文科科学省告示第7号 | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学科の目的 | 環境デザイン学科(インテリアデザイン専攻)の各分野に関するプロ養成に必要な、「基礎から実践」までを教育することを目的とし、次の事項に重点的に取り組む。 ・各分野のプロになるための技術や知識を学ばせ就職させる。 ・国家資格を中心に各種の資格取得を推進し、社会の発展に寄与する実践的な能力・態度を育てる。 ・いかに学生・保護者・就職先企業等のニーズに応えるか、各分野における諸課題を主体的・創造的に研修し実務的な職業教育を施す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成26年3月31日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2年 | 昼間 | 2400時間 | 480時間 | 1920時間 | 0時間 | 0時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 単位時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生徒総定員 | 生徒実員 | 留学生数(生徒実員の内) | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 100人 | 31人 | 0人 | 1人 | 9人 | 10人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学期制度 | ■前期:4月1日～9月26日 ■後期:9月27日～3月31日 | | 成績評価 | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業担当教員が課題の成果・提出状況・出席状況等を総合的に評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期休み | ■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:7月21日～8月17日 ■冬季:12月18日～1月12日 ■前期末:9月12日～9月26日 ■学年末:3月3日～3月31日 | | 卒業・進級条件 | 教育指導計画にしたがって授業科目を履修し、その成果が満足できると認められるときは、各学年の課程の修了又は卒業を認定する。卒業必要授業数 2400単位時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 面談及び保護者との連携 | | 課外活動 | ■課外活動の種類 北海道私立専修学校各種学校連合会札幌支部体育事業の参加、学園祭等の実行委員会等 ■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職等の状況※2 | ■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) インテリアデザイナー、建築設計、商業施設施工管理、ディスプレイ業、住宅設計 他 ■就職指導内容 一年次より就職ガイダンスを開催。二年時には就職課、担任を含めた三者面談を複数回行う。 ■卒業業者数 15 人 ■就職希望者数 13 人 ■就職者数 13 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 86.7 % ■その他 ・アルバイト並行し資格取得: 2人 (令和2年度卒業生に関する 令和3年5月1日 時点の情報) | | 主な学修成果(資格・検定等)※3 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス能力検定 ジョブパス3級</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>ADEC色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>Illustratorクリエイター・スタンダード</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>建築CAD検定3級</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>13人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄 ・第11回JIAテクニカルコンペ 入賞 ・JAPANTEXインテリアプランニングコンペ2020 JCD賞</p> | | | 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | ビジネス能力検定 ジョブパス3級 | ③ | 15人 | 13人 | ADEC色彩検定3級 | ③ | 15人 | 12人 | Illustratorクリエイター・スタンダード | ③ | 15人 | 11人 | 建築CAD検定3級 | ③ | 14人 | 13人 |
| 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ビジネス能力検定 ジョブパス3級 | ③ | 15人 | 13人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ADEC色彩検定3級 | ③ | 15人 | 12人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Illustratorクリエイター・スタンダード | ③ | 15人 | 11人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 建築CAD検定3級 | ③ | 14人 | 13人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中途退学の現状 | ■中途退学者 0 名 ■中途率 0 % 令和2年4月1日時点において、在学者32名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者32名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 補習の実施と保護者への連絡・連携、転科の実施等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経済的支援制度 | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: (有)無 パブリック奨学制度、スカランシップ奨学制度、交換留学奨学制度等 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象(非給付対象) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第三者による学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: (有)無 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当該学科のホームページURL | http://www.bisen-g.ac.jp/specialty/interior/ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文科科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

| | | | |
|---|---|------------------------------|------------------|
| 1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係 | | | |
| (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針 | | | |
| <p>本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」を達成するために、指導内容や各種特別活動等を総合的に組織する一連のPDCAサイクルにおいて、教育課程編成委員会でその教育効果を検証し、企業等委員からの意見・助言を取り入れ、開設科目編成や授業内容の改善等を図っていくものとする。</p> | | | |
| (2)教育課程編成委員会等の位置付け | | | |
| <p>年2回開催される本委員会は、委嘱委員から経営者等としての視点による助言を受け、即戦力となる人材育成のために、学生がインターンシップや職場体験、現場見学等を経験できる機会を創出する等、社会人としての基礎力および実務スキル向上につながる授業内容や指導方法の改善に取り組むための、意見交換および教育効果検証の場として位置付ける。 ※別紙1参照</p> | | | |
| (3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 | | | |
| 令和3年7月31日現在 | | | |
| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
| 佐野 公康 | 株式会社デービス 代表取締役 | 令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年) | ③ |
| 西村 昌実 | 北海道イラストレーターズクラブα 副会長 | 同上 | ① |
| 堀川 敦史 | (株)サイクロンゼロ 開発部マネージャー | 同上 | ③ |
| 大内 利章 | (株)自然農園 代表取締役社長 | 同上 | ③ |
| 内村 喜憲 | 北海道インテリアプランナー協会 会長 | 同上 | ① |
| 薄木 健友 | (株)花佳 代表取締役 | 同上 | ③ |
| 赤坂 真一郎 | (株)アカサカンイチロウアトリエ 代表取締役 | 同上 | ③ |
| 鈴木 理 | (株)鈴木理アトリエ一級建築士事務所 代表取締役 | 同上 | ③ |
| 根上 和也 | 北海道芸術デザイン専門学校 校長(委員長) | 同上 | |
| 高橋 美絵 | 同 教務部長 | 同上 | |
| 飯塚 哉子 | 同 学務部長・建築デザイン学科長 | 同上 | |
| 高畑 文一 | 同 産業デザイン学科長 | 同上 | |
| 田中 政史 | 同 マルチメディアデザイン学科長 | 同上 | |
| 桂 充子 | 同 環境デザイン学科長 | 同上 | |
| 稲葉 未紗 | 就職課主任 | 同上 | |
| <p>※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。) ②学会や学術機関等の有識者 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員</p> | | | |
| (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 | | | |
| (年間の開催数及び開催時期) | | 開催頻度:年二回 | 開催時期:8月下旬および1月下旬 |
| (開催日時(実績)) | | | |
| 第1回 令和2年8月25日 | | 16:00～18:00 | |
| 第2回 令和3年2月5日 | | 15:00～17:00 | |
| (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 | | | |
| <p>※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。 ・第1回教育課程編成委員会で出された意見や助言を踏まえ、改善点があれば、可能なものは後期の授業から、その他については次年度の教育課程編成に際して反映させ、第2回教育課程編成委員会で新年度教育課程案として提案している。 ・コロナ禍での卒業設計について、今年度はオンラインでの審査が多くなる事が予想されるが、プレゼンテーションデータのみに頼るのではなく、やはり空間把握の出来る模型の制作も必要であるとのご意見を頂いたので、取り組ませる方向で指導を行った。</p> | | | |
| 2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係 | | | |
| (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 | | | |
| <p>本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」達成のため、各専攻関連分野の企業および業界団体と連携し、実践的な職業教育の実施に必要なカリキュラムの作成、講義および研修の実施、各種教材の作成等において、緊密な協力体制を構築・維持するものとする。</p> | | | |
| (2)実習・演習等における企業等との連携内容 | | | |
| <p>・職業教育協定書に基づき、各専攻関連分野の企業および業界団体から、各専門分野の指導講師として人材の派遣を受ける。 ・担当教科目の指導計画について事前に協議し、各教科目のねらいに沿って授業内容や実施方法、評価の観点等についてまとめた指導計画書(シラバス)を作成し、指導講師と教務部で情報を共有する。 ・学修成果の評価指標・手法についても予め協議し、演習終了後には指導講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。</p> | | | |
| (3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。 | | | |
| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 | |
| インテリアデザイン応用演習 | 実際のインテリア工事ではクライアントの要望、予算など様々な制約がある。条件を踏まえつつ、より実践的なインテリアの提案を行う。スケール感、素材感を学びつつ、要望に対する自分らしい回答を考える。 | Aterlie Monogoto 一級建築士事務所 | |

| | | |
|-------------|---|-------------------|
| CAD演習Ⅱ | CADソフトを利用した図面作成から3Dモデリング表現までを学び、PC上でのレイアウトやプレゼンテーションスキルを習得する。テクスチャーにこだわったCG技術を身につけ、また同時に発想力・表現力・色彩感覚の向上を目指す。 | 株式会社 アトリエ樹 |
| インテリアエレメント | 建築内部空間の「しつらえ」に関する部分について日常生活における具体例、実物を見ながら授業展開を行う | 日々暮色舎 |
| 商業施設デザイン演習Ⅰ | カフェレストランの計画・設計をモデルにして、市場、コンセプト、プランニング、設計を学ぶ。人体動作と基礎空間(動線計画と平面レイアウト・展開寸法)の把握。各部の機能を理解し、店舗全体のデザイン設計を行う。 | 株式会社 スーパーブロック |
| 住空間計画 | 人間工学を基にしたインテリア計画の初歩的学習へ結びつける。基本設計では、設計条件分析、発想方法、さらにそれらを具体化させ、ラフプランニングを図面化して設計の流れを学び、インテリアデザインを具体的な形に発展させ、環境工学にも配慮した快適な住まいを提案する。 | 株式会社グリーンライトアソシエイツ |

| 3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|----------------------------------|------------------------|-------------|------------------|------------------------------|------------|----------------------------------|------------------------|--------------------------------|-------------------|----------------------|------------------------|---------------------------|---------|----------------------------------|------------------------|-------------------|-------|-----------------------|------------------------|----------------------------|---------------|---------------------------------|----------|----------------------------|
| <p>(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 本校教職員研修規程に基づき、研修は、教職員が現在就いている職に係わる職務の遂行に必要な知識、技能、資質等の向上を図ることを目的とし、そのため教職員の資質に応じた研修計画を策定し、校外で催される必要な研修を受ける機会を学園として認め、経費を負担することとする。 ・教職員は、業務に支障のない限り、理事長の承認を受け校外の産業現場等、勤務場所を離れて研修を行うことができるものとする。 ・各専攻関連分野の業界団体主催による各種技能研修や、ICT機器・アプリケーションソフト関連セミナー等の受講機会を確保し、最新の実務知識・技術・技能の計画的修得および向上に努める。 ・授業および学生に対する指導力向上のため、各種職能団体が運営する指導員研修への参加や、所定の年度に大学等で実施される教員免許更新講習等を受講する機会を確保する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>(2)研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等 研修名「ニューノーマルな暮らしとカラーコーディネート」(連携企業等:リリカラ株式会社) 期間:令和2年11月13日(金) 対象:建築・インテリア関係者 ②指導力の修得・向上のための研修等 研修名「社会で生きる実践的能力の育成～教育改革と専門学校の役割～」(連携企業等:学校法人美専学園) 期間:令和2年11月10日(火) 対象:本校教職員 内容:社会背景と教育改革の必要性、私たちが実践すべき「教育改革」について</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>(3)研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 研修名「令和3年度 北海道私立専修学校各種学校連合会 工業部会 教職員研修会」(連携企業等:北海道私立専修学校各種学校連合会)期間:令和4年1月(予定) 対象:(公社)北海道私立専修学校各種学校連合会会員校及びその他の教職員 ②指導力の修得・向上のための研修等 研修名「令和3年度第1回文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会」(連携企業等:北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会) 期間:令和3年8月3日 対象:(公社)北海道私立専修学校各種学校連合会会員校及びその他の教職員 内容:新型コロナ下の状況をふまえた教育環境について</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1)学校関係者評価の基本方針 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自己評価と学校関係者評価を実施することで、学校の現状と課題を的確かつ具体的に把握して学校運営の改善、強化を目指すものである。また、同時に関係する業界、企業等との信頼関係を深めることを基本の方針としている。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)教育理念・目標・人材育成像</td> <td>学校の教育理念・目的・人材育成像などは明確になっているか</td> </tr> <tr> <td>(2)学校運営</td> <td>教育活動に関する情報公開がなされているか</td> </tr> <tr> <td>(3)教育活動</td> <td>成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</td> </tr> <tr> <td>(4)学修成果</td> <td>就職率の向上が図られているか</td> </tr> <tr> <td>(5)学生支援</td> <td>学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</td> </tr> <tr> <td>(6)教育環境</td> <td>実習施設、インターンシップの場等、十分な教育体制を整備しているか</td> </tr> <tr> <td>(7)学生の受入れ募集</td> <td>学生募集活動は適正に行われているか</td> </tr> <tr> <td>(8)財務</td> <td>財務について会計監査が適正に行われているか</td> </tr> <tr> <td>(9)法令等の遵守</td> <td>個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</td> </tr> <tr> <td>(10)社会貢献・地域貢献</td> <td>学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</td> </tr> <tr> <td>(11)国際交流</td> <td>留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</td> </tr> </tbody> </table> | | ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 | (1)教育理念・目標・人材育成像 | 学校の教育理念・目的・人材育成像などは明確になっているか | (2)学校運営 | 教育活動に関する情報公開がなされているか | (3)教育活動 | 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | (4)学修成果 | 就職率の向上が図られているか | (5)学生支援 | 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか | (6)教育環境 | 実習施設、インターンシップの場等、十分な教育体制を整備しているか | (7)学生の受入れ募集 | 学生募集活動は適正に行われているか | (8)財務 | 財務について会計監査が適正に行われているか | (9)法令等の遵守 | 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | (10)社会貢献・地域貢献 | 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | (11)国際交流 | 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか |
| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1)教育理念・目標・人材育成像 | 学校の教育理念・目的・人材育成像などは明確になっているか | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (2)学校運営 | 教育活動に関する情報公開がなされているか | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (3)教育活動 | 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (4)学修成果 | 就職率の向上が図られているか | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (5)学生支援 | 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (6)教育環境 | 実習施設、インターンシップの場等、十分な教育体制を整備しているか | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (7)学生の受入れ募集 | 学生募集活動は適正に行われているか | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (8)財務 | 財務について会計監査が適正に行われているか | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (9)法令等の遵守 | 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (10)社会貢献・地域貢献 | 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (11)国際交流 | 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ※(10)及び(11)については任意記載。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (3)学校関係者評価結果の活用状況 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員からの助言を受け、卒業後に国家試験を再受験する者への支援体制のより一層の充実に努めた。また、「外部との接触など、現場の声を意識させることが学生の意識を高め、勉強の質が高まる」との助言を踏まえ、職業実践専門課程校として、連携する企業との学生に係る情報の共有の充実に努めた。コロナ禍における学びの継続のためにハード面・ソフト面での整備を行った。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 令和3年4月1日現在 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>所属</th> <th>任期</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>河村和義</td> <td>(株)アトリエー級建築士事務所</td> <td>令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)</td> <td>企業関係者</td> </tr> <tr> <td>櫻井俊二</td> <td>(有)I.B.DESIGN</td> <td>令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)</td> <td>卒業生・企業関係者</td> </tr> <tr> <td>山森鉄雄</td> <td>元、山森鉄雄司法書士事務所</td> <td>令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)</td> <td>企業有識者</td> </tr> <tr> <td>細木 実</td> <td>(株)asclair</td> <td>令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)</td> <td>卒業生・企業関係者</td> </tr> </tbody> </table> | | 名前 | 所属 | 任期 | 種別 | 河村和義 | (株)アトリエー級建築士事務所 | 令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年) | 企業関係者 | 櫻井俊二 | (有)I.B.DESIGN | 令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年) | 卒業生・企業関係者 | 山森鉄雄 | 元、山森鉄雄司法書士事務所 | 令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年) | 企業有識者 | 細木 実 | (株)asclair | 令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年) | 卒業生・企業関係者 | | | | |
| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 河村和義 | (株)アトリエー級建築士事務所 | 令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年) | 企業関係者 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 櫻井俊二 | (有)I.B.DESIGN | 令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年) | 卒業生・企業関係者 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 山森鉄雄 | 元、山森鉄雄司法書士事務所 | 令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年) | 企業有識者 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 細木 実 | (株)asclair | 令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年) | 卒業生・企業関係者 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 (ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) URL: http://www.bisen-g.ac.jp (北海道芸術デザイン専門学校) https://www.iyakua.ac.jp (北海道医薬専門学校) 公表時期: 令和3年7月1日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校の状況(課題や教育活動の取組)を広く理解してもらい、さらに企業等との信頼関係を深める。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの項目</th> <th>学校が設定する項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)学校の概要、目標及び計画</td> <td>経営方針、学校の特色、新型コロナウイルス感染症対策</td> </tr> <tr> <td>(2)各学科等の教育</td> <td>カリキュラム、収容定員、学修成果、資格取得等の実績、卒業生の進路</td> </tr> <tr> <td>(3)教職員</td> <td>各教員の担当科目、教員の専門に関する情報</td> </tr> <tr> <td>(4)キャリア教育・実践的職業教育</td> <td>就職支援等への取組状況、実習等の取組情報</td> </tr> </tbody> </table> | | ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 | (1)学校の概要、目標及び計画 | 経営方針、学校の特色、新型コロナウイルス感染症対策 | (2)各学科等の教育 | カリキュラム、収容定員、学修成果、資格取得等の実績、卒業生の進路 | (3)教職員 | 各教員の担当科目、教員の専門に関する情報 | (4)キャリア教育・実践的職業教育 | 就職支援等への取組状況、実習等の取組情報 | | | | | | | | | | | | | | |
| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1)学校の概要、目標及び計画 | 経営方針、学校の特色、新型コロナウイルス感染症対策 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (2)各学科等の教育 | カリキュラム、収容定員、学修成果、資格取得等の実績、卒業生の進路 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (3)教職員 | 各教員の担当科目、教員の専門に関する情報 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (4)キャリア教育・実践的職業教育 | 就職支援等への取組状況、実習等の取組情報 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|--|-----------------------------|
| (5)様々な教育活動・教育環境 | 学校行事への取組状況 |
| (6)学生の生活支援 | 学生支援への取組状況 |
| (7)学生納付金・修学支援 | 学生納付金の取り扱い、活用できる経済的支援措置の内容等 |
| (8)学校の財務 | 事業報告書、収支計算書 |
| (9)学校評価 | 自己評価・学校関係者評価の結果 |
| (10)国際連携の状況 | 留学生の受け入れ・派遣状況 |
| (11)その他 | 学則 |
| ※(10)及び(11)については任意記載。 | |
| (3)情報提供方法 | |
| (ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) | |
| URL: http://www.bisen-g.ac.jp (北海道芸術デザイン専門学校) https://www.iyaku.ac.jp (北海道医薬専門学校) | |

授業科目等の概要

| (文化教養分野専門課程 環境デザイン学科 インテリアデザイン専攻) 令和3年度 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|------------------|------------------|---------------|--|---------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|---|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 | |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | | |
| ○ | | | インテリア概論 | インテリアデザイン、コーディネーションボード等の作成を中心にもの創りの楽しさを学ぶ。インテリアデザイナー、コーディネーターとして必要な知識、技術を身に付け、実践する能力を養う。 | 1前 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | | |
| ○ | | | 英語 | 芸術分野・デザイン分野の職業の中で、英語を使用する場面に必要な知識を習得する。英会話を通して、コミュニケーション能力向上を目指す。 | 1前 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | 住まいと環境 | 安全・衛生的かつ快適な環境を実現するための基礎的な事項を学び、建築をとりまく自然環境の特性、熱移動の基本的プロセス、熱の平衡、人間の感覚と快適環境条件を理解する。 | 1前 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | | | ○ |
| ○ | | | 色彩計画 | 各種表色系や、色の対比・感情効果、色彩調節の手法を実例を見ながら学び、色彩理論や目的に基づく配色計画を様々なデザインに応用することを学ぶ。カラーカードを用いた演習により、実践的な色彩計画をたてられる能力を身につける。 | 1前 | 30 | 1 | △ | ○ | | ○ | | | | | ○ |
| ○ | | | インテリア計画Ⅰ | 豊かな建築空間を合理的に計画し、設計できる能力を養う。条件(立地、予算、法規、機能)を整理検討し、具体的な形状や空間としてまとめる為の基本的な考え方を学ぶ。 | 1前 | 60 | 2 | △ | ○ | | ○ | | | | | ○ |
| ○ | | | インテリア計画Ⅱ | 住宅空間に焦点を当て、その実例を通してディテール、建築手法、計画における幅広い知識を習得する。住宅に係る要素を学び、それぞれの関係性の比重によって住宅の形態が多様であることを理解する | 2前 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | | | | ○ |
| ○ | | | インテリアデザイン基礎演習 | 著名なインテリアデザイナーについて調べ、その分析を通じて業界の仕事に触れる。照明器具のシェード製作を通して機能とデザインの基礎を学び、言葉を使わずに意図を伝えるというデザインの役割を体験する。 | 1前 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | | | | ○ |
| ○ | | | インテリアデザイン応用演習 | 既存シティホテルの改修課題。実際の物件を対象に現地視察を行い周辺状況の確認から課題条件を読み解き、各自で課題対象範囲に対してテナントの設定とインテリアの提案を行う。 | 2前 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | | | | ○ |
| ○ | | | 基礎製図 | 建築図面の描き方やルールを学び、各種図面を理解しながら作図出来る基礎的能力を身につける。 | 1前 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | | | | ○ |
| ○ | | | パースペクティブ基礎演習 | 設計意図を的確にクライアントに伝え、かつ自身の空間イメージの把握として、パース技法を習得する。空間のスケールと形態、開口部の位置や納まりを自己確認する能力を養う。 | 1前 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | | | | ○ |
| ○ | | | インテリア構法 | インテリアの構造・構法と仕上げに関する知識を解説。建築の技術用語、基礎的な構造形式を習得する。素材については事例分析をしながら実際のサンプルに触れて特性を学ぶ。 | 1後 | 60 | 2 | △ | ○ | | ○ | | | | | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-------------|--|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|--|--|
| ○ | | 基礎力学 | 構造力学の基本事項として、建築構造物の種類、力のつり合い、構造物のモデル化と作用する外力、構造物に生じる応力と変形の関係を理解する。 | 1後 | 30 | 1 | △ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| ○ | | インテリアエレメント | 建築内部空間の「しつらえ」に関する部分について日常生活における具体例、実物を見ながら授業展開を行う。内装材・ファブリック・家具・照明のインテリアエレメントに対する知識を学び、ショールームで実際に確認する。 | 1前 | 60 | 2 | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| ○ | | インテリア施工 | 建築の設計から施工に至る建築生産の全工程における建築生産体制、各種の課題、施工技術について実際に基づき学習する。 | 1後 | 30 | 1 | ○ | | ○ | | ○ | | | | | | | |
| ○ | | CAD演習 I | 二次元CADによる作図の方法を学び、コンピュータを利用した設計・製図技能を習得する。CADによる建築設計製図のスキルと基礎理論の習得を目的とし、身近な空間を題材としてスケール感を把握し、的確に図面表現が出来る能力を養う。 | 1前 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | ○ | | | | | | |
| ○ | | CAD演習 II | 建築空間の検討や建築物の形態、室内環境、景観などをシミュレーションし、素早く、きれいに、分かり易く、設計内容を提示する能力を養う。設計に必要な表現(CAD製図、CGプレゼン)を実践的な課題と関連付けながら学び知識を深める。 | 2前 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | ユニバーサルデザイン論 | ハートビル法を理解し、ユニバーサルデザインを考慮した各部寸法、面積、配慮事項を設計演習を通して学ぶ。高齢者や障害者の行動特性を知り、居住環境における配慮点を考慮した設計が出来る能力を養う。 | 1後 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | | | | | |
| ○ | | 住空間計画 | 住宅の設計を中心に幅広く建築に触れ、計画する意味や楽しさを見出し、現地調査から設計までを体験する。建築設計の流れを把握し、インテリア設計に活かす事が目標。 | 1後 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | 造形演習 I | 作品製作を通じて建築設計に必要なヒューマンスケール、三次元形態の把握方法を理解する。建築物を立体的に表現する能力を身につける。 | 1前 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | | | | ○ | | | |
| ○ | | 造形演習 II | 模型制作を通して各工法の基本となる構造や名称を学習し、現場施工の手順に沿って組み立てることにより、施工の流れの概略を理解する。 | 2前 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | | | | ○ | | | |
| ○ | | DTP基礎演習 | コンピューターの基本操作と、デザイン業界で世界標準のグラフィック描画ソフトIllustrator、Photoshopソフトの操作スキル、デザインテクニックを学び、検定試験の合格を目指す。 | 1前 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | | | | ○ | | | |
| ○ | | DTP応用演習 | プレゼンテーションにおけるDTP作業、テーマ・コンセプト内容・情報や思いが人に伝わる作品説明になるように、レイアウト、画像加工、色彩学を応用し、作品を的確にわかりやすく伝えるためのデジタルデザインを学ぶ。 | 2後 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | | | | ○ | | | |
| ○ | | インテリア模型 | インテリアデザインのプレゼンテーションに、より効果的な手段としての模型制作技術を習得する。インテリア素材や家具に関する観察力を磨き、コンセプトを端的に伝えられる模型構成を目標とする。 | 1後 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | | | | ○ | | | |
| ○ | | 3Dデザイン演習 I | 効果的なプレゼンテーションに不可欠な製図技法、表現技法の一つとして、Vectorworks やRender WorksなどのCADソフトの習得を目指す。家具、室内3D空間、プレゼンテーションの作成まで、CAD/CGテクニックを習得。 | 1後 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | | | | ○ | | | |
| ○ | | 3Dデザイン演習 II | 3Dデザイン演習 I にて学んだ技術を基に、より高度なモデリングテクニックを学び、外構のデザインを含めたトータルなプレゼンテーションを目指す。 | 2前 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | | | | ○ | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-------------|--|----------|---------|--------|---|---|---|--|---|---|
| ○ | | インテリアディテール | 『良いデザインは良いディテールの積み重ねで出来ている』ディテールの重要性を実物や素材に触れる機会を通して体験し学ぶ。インテリアディテールの基礎知識、デザイン、プレゼンテーション、素材知識、納まりを身につける | 1後 | 30 | 1 | ○ | | ○ | | ○ | |
| ○ | | インテリア設計演習 | リゾートホテルのスイートルームやアパレルショップ等、各種設計条件(計画目的、周辺状況、所要スペース等)を満たす平面図兼家具配置図、透視図を描き、計画力、表現力を養う。 | 1後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | | ○ | |
| ○ | | 商業施設デザイン演習Ⅰ | 店舗における商環境の理解と効果的な空間デザイン計画に必要な関連法規・各部詳細・エレメントの知識を習得し、実践的な空間デザイン計画に応用する。実務としての必要図面を一式作成する。 | 1後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| ○ | | 商業施設デザイン演習Ⅱ | カフェレストランのデザインをモデルとして設計工程、調査・資料収集、構想、設計、プレゼンテーションまでを順を追って学習する。商業施設計画に必要な設計図書、関連法規を理解する。 | 2前 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | ○ | |
| ○ | | インテリア装備 | 各部の構法・材料やエレメント(家具、照明器具、壁紙、建具、カーテン等)、防災安全・サイン計画について演習課題を通して学ぶ。 | 2前 | 30 | 1 | | ○ | ○ | | ○ | |
| ○ | | 住宅設計演習 | 住宅設計に係る基礎的な知識、技術、工法を踏まえ演習課題を通して心地よい住空間をデザインする力を養う。 | 2前 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | ○ | |
| ○ | | 設備計画 | 建築の要素技術である建築設備の位置づけおよび概論的な内容を講義する。給排水衛生設備計画を進める上で必要となる基礎知識を習得する。 | 2前 | 60 | 2 | ○ | | ○ | | ○ | |
| ○ | | 建築一般 | 建築物の構造システムや建築形態とそれに相応しい構造材料・構造方式、および各種構造における構法を学習する。 | 2前 | 30 | 1 | ○ | | ○ | | ○ | |
| ○ | | インテリア法規 | 建築基準法及び建築基準法施工令を基本として、建築物自体の主要な技術基準、主要な建築制限、制度規定について学び、設計に際しての実務に応用すべく能力を養う。 | 2前 | 30 | 1 | ○ | | ○ | | ○ | |
| ○ | | プレゼンテーションⅠ | インテリア空間を表現するための手段としてのプレゼンテーションについて、知識と技術を学び、イメージや考えを相手に的確に伝える能力を養う。 | 1後 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | ○ | |
| ○ | | プレゼンテーションⅡ | インテリアの基本計画・設計を造形的表現、技術的表現を用いて的確に伝達するビジュアルプレゼンテーション技法を学ぶ。建築、インテリア空間をより一層明確に表現・伝達する技術を習得する。 | 2後 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | ○ | |
| ○ | | 業界研究 | キャリアプラン(進路設計)を計画・実行する力を育成する。自分の目指す業界、企業の具体的な調査・分析方法を習得し、エントリーシート・履歴書・ポートフォリオの作成を行い活用する能力を養う。 | 2後 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | ○ | |
| ○ | | 前期課題制作 | 日常の講義や演習を通して学んだ発想、技法を活かし、前期のまとめとして課題制作を行い各種コンテストへ出品する。必要な資料を収集するリサーチ能力や、多様な視点から発想を広げて具体的な表現に展開する力を身につける。 | 1前 2前 | 各 30 | 各 1 | | ○ | ○ | | ○ | |
| ○ | | 後期課題制作 | 日常の講義や演習を通して学んだ発想、技法を活かし、後期のまとめとして課題制作を行う。進級制作に繋がる資料収集、準備、計画に役立てる。 | 1後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | |
|----|--|------|---|--------|-----------------|----|--|---|---|---|---|--|
| ○ | | 進級制作 | 素材を活かしたインテリア空間の提案と、クライアントの要望に基づいたテーマ設定のもと、設計計画からプレゼンテーション(テーマ・コンセプト・ダイアグラム・各種図面・イメージパース(立体表現)・インテリアエレメントを含むDTP表現)まで行い、1年間の総まとめの作品 | 1 後 | 180 | 6 | | ○ | ○ | ○ | △ | |
| ○ | | 卒業制作 | 独自のテーマ設定のもと、設計計画からプレゼンテーションまで、コスト管理も含めた実践的な提案に取り組む。2年間の集大成となる作品を制作。 | 2 後 | 450 | 15 | | ○ | ○ | ○ | △ | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | 41科目 | 2400単位時間(80単位) | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|--|--|----------|-----|
| 各学年の教科目を履修・修得し、卒業制作の審査に合格した者は、第2学年の課程の修了が認められ、卒業が認定される。卒業時必要履修授業時数2,400単位時間。 | | 1学年の学期区分 | 2期 |
| | | 1学期の授業期間 | 16週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。